

## オープンキャンパス開催

～1600名余の高校生が参加～

本学への入学希望者を対象とし、学部の説明や施設見学を行うオープンキャンパスが8月1日から3日まで開催された。説明会は各学部ごとに開かれ、薬学部、食品栄養科学部が8月1日(水)、国際関係学部、経営情報学部が8月2日(木)、看護学部が8月3日(金)に実施。参加者は3日間で1663名、県外からも220名が参加した。

参加者は入学を希望する学部ごとに集合し、学部長や教員から学部、学科ごとの授業内容やその特徴、また、入学者選抜に関する説明を受けた後、

教員や学生の案内でグループごとに分れて学内を見学した。

学内見学では、研究室や実験室、実習室の見学、研究内容の説明、LL教室での模擬授業、コンピュータ実習室での機器操作、また在学生による専門コースの説明や、キャンパスライフの紹介などが行われた。

また、学生部に相談コーナーも設けられ、参加者は入試や、学生生活、留学などについて熱心に相談していた。



## 『県民の日』事業

### 「キャンパス・ツアー」

明治9年8月21日に静岡県が誕生したことを記念し、平成8年度に制定された「県民の日」の諸行事が、8月21日(火)を中心に県内各地で開催された。本学では、大学構内見学会の「キャンパス・ツアー」と「環境科学研究所の一般公開」が行われた。



8月21日(火)の「キャンパス・ツアー」には、台風11号が接近し雨の降る中、県内各地から小・中・高校生からご高齢の方まで54名の参加があった。参加者は3グループに分かれて大学職員の誘導により各学部棟や図書館、学生ホールなどを見学した。研究室では教員や学生から説明を受けたり、またLL教室やコンピュータ実習室では模擬授業を体験するなど、県大の施設、設備や研究内容などに感心していた。学長室の見学では、多少緊張した面持ちで学長の挨拶を受けた。参加者からは「台風で参加を迷ったが来て良かった」などの声が聞かれた。



### 環境科学研究所一般公開

8月25日(土)に開催した「環境科学研究所一般公開」では、環境問題についての研究内容の理解を県民に深めてもらい、一般県民に親しみを持ってもらうため、13の研究室の公開、研究内容の展示、デモンストレーション実験の紹介などが行われた。過去最高の参加者数を記録し、公開内容についても参加者からほぼ好評の感想をいただいた。



## ファーマカレッジ2001「21世紀の創薬を体験しよう」

本学薬学部は、県内の高校生を対象とした体験入学を実施している。3回目の今回は「ファーマカレッジ2001：21世紀の創薬を体験しよう」という企画の基に、8月2日、3日の2日間にわたり開催された。ファーマカレッジは、高校生が大学の研究者から直接指導を受けて実験を行う中で、科学的なものの見方を養い、科学に接する喜びを体験することにより、科学に対する興味や理解を深め、将来の夢や希望を育てることを目的としている。また大学の研究室を肌で感じてもらうよい機会でもある。ヒトゲノムが解読された今日において、医療や健康、環境や衛生などのさまざまな領域を包含する総合科学、最先端生命科学を担う薬学を理解し、最新の技術を通して21世紀の創薬を体験学習することを目指して60余名の応募があったが、スペース等の関係から30名の参加者を決定した。

第1日日には、廣部学長の実験を交えた講義があり、水の中で浮き上がる卵などのデモンストレーションと解説は、高校生でなくても興味深いものであった。高校生は学長自らが実験の楽しさを示してくれたことに感動し、熱心に聞き入っていた。その後参加者は6名ずつ5つのグループに分れ、課題研究に取り組んだ。



学長講義

「生体活性化合物を創ってみよう」ではエイズ治療薬ジドブジンの合成を行い、「免疫 - 細胞の働きをミクロの視点で」では抗体を産生するリンパ球をミクロの視点で観察し、「生体活性物質の単離と構造決定」ではステビアの甘味成分であるステビオサイドの抽出、単離および最新の技術を用いた化学構造の決定を体験した。また「生体活性ペプチドの構造を検索しよう」ではコンピューターを用いた生体活性ペプチドの構造解析を、「生命現象を目で見よう」では脳機能と関係したミネラルの脳内移行や、コレステロールの細胞内異常蓄積のバイオイメージング技術を体験した。



研究内容の発表



研究内容の発表

研究終了後、各グループごとにOHPを使用し、研究内容の発表を行った。参加した高校生たちは、高校では体験できない新しい技術や、分析機器を

使用した実験、動物実験などにより薬学への興味を深め、学問のおもしろさ、研究の奥深さを感じ、とても有意義であったと感想を述べていた。



研究室での実験



講義風景



参加者と指導した先生 大学院生

## 食品栄養科学部の動き

食品栄養科学部長 竹石柱一

食品栄養科学部は本学の開学と同時に開設され、今年15周年を迎えました。学部開設当初は本学部の本当の姿が一般になかなか正しく伝わりませんでした。最近はかなり正しく理解されるようになってきました。また、進学塾等による最近の調査結果などにより、本学部の研究・教育に対して高い評価が与えられておりますが、今後も、本学部は地域貢献を念頭におき、21世紀における「食と健康」の科学の最先端を目指して研究活動・教育活動により一層精力的に取り組んでいく必要があると考えております。

本学部の学生数は本年4月現在1～4年生まで合計で233名です。そのうち、学部開設当初は50%以上いた男子学生が今は約15%の34名で、少し淋しい気はしますが、今年久しぶりに栄養学科に5名の男子学生が入学しました。最近では、画期的な出来事と言えます。一方、食品栄養科学部・同専攻の教員数は、本年4月1日現在、学部本務教員40名（教授13名、助教授9名、助手18名；このうち32名が研究科兼務）と、大学院生活健康科学研究科食品栄養科学専攻の大学院専任教員（学部兼務）8名（教授3名、助教授1名、助手4名）です。

昨年度末から今年度初めにかけてかなり教員の移動がありました。まず、食品衛生学研究室の下位香代子助手は環境科学研究所・生体機能学研究室担当の助教授（定年退官された富田多嘉子教授の後任）として、また、臨床栄養学研究室の米山孝助手は愛媛県の国保一本松病院の病院長として栄転され、さらに栄養管理研究室の西尾素子助手が退職されました。下位助手の後任には増田修一

助手（本学部一期生）、西尾助手の後任には竹下登紀子助手が5月に着任致しました。

次に、本年3月の短期大学部浜松校の閉校に伴い、本年4月より5名の教員が本学部に移籍されました。その結果、食品学研究室（小國伊太郎教授）調理学研究室（貝沼やす子教授）食品生化学研究室（斉藤慎一助教授）及び公衆栄養学研究室（白木まさ子助教授・亀山良子助手）の4研究室が本学部に加わり、これにより学部本務の教員（教授・助教授）が担当する研究室が22、大学院専任教員担当の研究室も含めると全部で26研究室になりました。後述のように、本学部栄養学科は本年4月より管理栄養士養成施設の指定を受けることができましたが、その際、短大部から移籍された先生方にも多くの科目を担当して頂きました。しかし、極めて残念なことに移籍された教員は定員化されておられません。

既存の食品栄養科学部棟には移籍された教員を受け入れるスペースが全くありませんので、現在本学部隣接して地上3階建ての新棟が増築されつつあります。完成するのが本年の9月末の予定ですので、移籍された方々はそれまで仮住いを強いられております。なお、この増築棟の工事につきましては、全学の皆様にご不便・ご迷惑をお掛けしていることと存じますが、どうかご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。本学部の栄養学科は、これまで厚生省から栄養士養成施設としての指定を受けておりましたので、所定の単位を修めれば卒業と共に栄養士免許を取得でき、管理栄養士の国家試験受験資格が与えられました。しかし、平成14年4月1日に“改正栄養士法”が施行されますと、管理栄養士の国家試験受験資格を取得するには、4年生大学の栄養士養成施設卒業の栄養士の場合、

大きな病院での実務経験が1年以上必要になります。これまで通り卒業後すぐ国家試験を受けられるようにするためには、管理栄養士養成施設の指定を受ける必要があり、その準備を進めて参りました。その結果、厚生労働省及び文部科学省から平成13年3月16日付けで本学部栄養学科が管理栄養士養成施設として新たに指定された旨の通知があり、本年4月以降の入学者に対して適用されることになりました。

本年4月から本学部栄養学科は管理栄養士養成施設として新たにスタートしたわけですが、平成14年4月からの改正栄養士法の施行に伴って、重点が従来の「給食管理」から「傷病者の療養に必要な栄養指導」に移り、これまでの管理栄養士養成のカリキュラムを改訂しなくてはなりません。この事態に対処するために、去る6月に「管理栄養士養成施設新カリキュラム検討委員会」が設置されました。

以上のほかに、本学部の動きとして、次のようなものがあります。

まず、最近、特に高等専門学校から本学部への編入学の希望が寄せられておりますが、これまで編入学は本学の学則第30条の規定により「欠員のある場合に限り」という制限があり、事実上無理でした。本学部でこの学則の改訂をお願いしようとしていた矢先に看護学部からその提案があり、6月の評議会で学則第30条は上記の部分で「若干名に限り」との表現に改訂されました。そこで、本学部におきましても高専や短大等からの編入学を前向きに進めるため、「編入学検討委員会」が設置され、実施する場合の問題点や具体的要領を検討することになりました。

次に、食品栄養科学部・同専攻の創立15周年記念事業の一環として、「創立15周年記念研究室公開」が去る7月7日（土）に行われました。各研究室の活動の紹介と共に、「体験コーナー」で一般の方々に「食と健康」に関連した簡単な実験や観察を体験して頂きました。この記事の終わりにあるスナップ写真はその時の一コマです。

さらに、本学部に関連した動きの一つとして、本年11月9日（金）、10日（土）にグランシップ（静岡）で第6回静岡健康・長寿学術フォーラムが開催されます。本学部の教員も実行委員会のメンバーとして参画しています。今回は「ゲノム創薬と21世紀の医療」をメインテーマとして、「ゲノムサイエンスの新展開」、「ゲノム研究から新世紀の医療へ」、「ゲノム創薬の戦略」などの学術講演及び県民向けのシンポジウム「ゲノムと21世紀の医療」が予定されています。もう一つは、本学と浙江省医学科学院との交流の一環として第5回日中健康科学シンポジウムが本年12月5日（水）、6日（木）に本学で開催される予定で、本学部も参加することになっております。

以上、本学部の最近の動きを簡単にご紹介申し上げます。



食品栄養科学部・同専攻の「創立15周年記念研究室公開」の体験コーナーの一コマ

## 小学校教諭のための環境体験学習を開催

環境科学研究所

8月23日(木)、24日(金)9時30分から16時まで(両日とも)小学校教諭を対象とした「環境体験学習」が今回初めて実施された。

「小・中・高等学校における環境教育と大学の役割に関するアンケート調査」の結果に基づき、「総合学習の一環として環境教育を指導される先生方に、実習を通して指導の参考となる体験をしていただき、今後の授業に役立てていただきたい」という趣旨で企画され、初回の今年度は、参加対象を小学校の先生方に限定し、「水の汚染と浄化を学ぶ」、「大気の汚染と土のはたらきを学ぶ」をテーマに、午前には水質汚染の現状と微生物による水の浄化などの講義、午後には河川水



を汚染する有害化学物質の検出などの実習や討論が行われた。参加した7名の教諭は講義に、実験に熱心に取り組んでいた。担当研究室は環境工学研究室、大気環境研究室、水質・土壌環境研究室、動態化学研究室の4研究室。

## カリフォルニア大学バークレー校と交流協定を締結

国際関係学部

国際関係学部(関森勝夫学部長)は、6月19日付けでカリフォルニア大学バークレー校サマーセッションズ・オフィスと部局間の交流協定を締結した。双方は、夏期客員研究者プログラムにおいて、教員、研究者の相互訪問を支援すること、夏期に学生の交換を行う可能性を探っていくことなどについて合意した。

これまでにも本学からはバークレー校の夏期語学研修に学生が参加しており、今後、双方の交流関係がより一層発展していくことが期待されている。



## 「TOKAI奨学金」目録授与式

株式会社TOKAI奨学金目録授与式が6月15日に本学応接室で行われ、3人の学生に奨学金が授与された。

TOKAI奨学金は本学の日本人学生2名、留学生1名を対象に支給され、今年度で10回目を迎えた。奨学金の募集は「情報通信の発展と市民の生活について」をテーマにした小論文で行われ、39名の応募があり審査の結果、経営情報学部3年の永田茜さん、国際関係学研究科修士1年の影山葉子さん、生活健康科学研究科修士1年雷雨静さんが奨学生に選ばれた。奨学金は月額5万円が1年間支給される。

授与式では、株式会社TOKAIの岡野憲正常務取締役が、奨学金を友好に利用して勉学に励んでいただきたいと挨拶した。



奨学金を授与された雷さんは、中国で廃棄物問題を引き起こしている石炭灰のリサイクル方法について研究したいと考えている、貴社から受けた恩恵に背かないよう一生懸命頑張りますとお礼の言葉を述べた。

## 「富士川町静岡県立大学留学生就学奨励金」交付式

富士川町文化事業振興会が支給する就学奨励金の交付式が6月16日、富士川町中央公民館で行われた。

この就学奨励金は、本学に在学する優秀な留学生に1人年額10万円を交付し、留学生の教育・研究活動を支援するとともに、富士川町が主催する事業を通じて、留学生と富士川町民との相互の心の触れ合いを深め国際交流を図ることを目的としている。

支給にあたっては、長期にわたる留学生・富士川町民の交流を図るため、学部1年生を優先している。今年度は学部1年の留学生10名全員に支給された。

交付式では、秀村敏朗富士川町文化事業振興会長、坪内伸浩富士川町長が挨拶し、受給者を代し



て、国際関係学部国際関係学科1年の白金梅さんがお礼を述べた。

今後、留学生は富士川町民との交流会や、小中学校で行われる児童、生徒との交流会に参加して富士川町民との交流を図る予定。

## 「南富士産業奨学金」授与式

南富士産業株式会社奨学金授与式が7月10日本学応接室で行われた。本奨学金は、本学に在学する向学心に燃える優秀な学生に対し、学費の一部を援助することにより、国際社会、文化に貢献する人材育成の一助とすることを目的としている。今年度で5回目を迎え月額3万円が1年間支給される。

「お茶と健康」を論文のテーマに21名の応募があり、国際関係学部国際言語文化学科4年の高橋加織さんが奨学生に選ばれた。

授与式で南富士産業株式会社の杉山定久代表取締役社長は、国際社会に貢献する人に育つことを期待したいと挨拶があった。また、奨学金を授与された高橋さんは、将来、高校の英語教員を目指しており、奨学金を大切にに使わせていただき自分



の夢が叶うよう精一杯頑張りますとお礼の言葉を述べた。

## 「駿河精機奨学金」授与式

駿河精機株式会社奨学金授与式が7月10日、本学応接室で行われた。駿河精機は経営理念の「天意創造」のもとに地域に密着した企業を目指しており、人材開発の一環として奨学金制度を設け、今回が6回目の授与式となる。奨学金は月額5万円が1年間支給される。

「人生で感動したこと」を論文テーマに39名の応募があり、食品栄養科学部栄養学科2年の野口康子さん、国際関係学部国際言語文化学科2年のアンキー・クルフィアンティさんが採用された。

授与式では、駿河精機株式会社の望月信行取締役管理部長ほか関係者が出席した。奨学金を授与された野口さんは、これから実験などで忙しくなるため実家から離れて一人暮らしが始まるが、奨学金をいただけることで精神的にも大きな支えとな



りますとお礼を述べた。インドネシア出身のアンキーさんも、アジア諸国の抱えている問題を理解し、アジアの将来を研究したい、奨学金は言葉に表現できないくらいの喜びですとお礼の言葉を述べた。

## 「静清信用金庫奨学金」授与式

静清信用金庫奨学金授与式が7月19日、静岡市の静清信用金庫本社にて行われた。本奨学金は地域に生きる静清信用金庫の基本方針に従い、次代を担う人材育成に関与するため設立された。奨学金は本学の学生のうち学部1年生から3年生を対象としており、月額3万円が1年間支給される。

審査は3つのテーマ「金融機関に対する要望、これからの成長産業・企業について、社会構造の変化に伴う金融機関の対応」により論文を募集し行われ、薬学部薬学科2年の桑原陽太さん、国際関係学部国際関係学科2年の藤巻令子さんの2名が採用された。



授与式では、静清信用金庫の高橋晋理事長が挨拶し、2名の学生に奨学金が授与された。

## 「天野回漕店奨学生」認定書授与式

株式会社天野回漕店奨学生認定書授与式が7月18日に、本学応接室で行われた。天野回漕店は「共存共栄」を経営理念の一つに掲げ、地域社会の発展に努められており、地元静岡県にて勉学する学生の奨学奨励の一助に寄与するべく、平成7月から奨学金制度を開始した。今年度で7回目を迎える本奨学金は月額3万円が1年間支給される。

奨学金募集は「未来の清水港への提言、私の『人生へのこだわり』、静清合併について」を論文のテーマとして行われ、14名が応募し、経営情報学部2年の松永寛子さん、国際関係学部2年の関紅歌さん、国際関係学部2年の李賢美さんが認定された。

授与式では、株式会社天野回漕店の小松信介取締役社長から認定書を授与され、松永さんは、将来は人々を感動させ魅了する広告をつくりたい、



奨学金はそのための勉強などに使いたい、関さんは、中国と日本のこれからの関係を専門的な知識で分析できるようになることが目標です、李さんは政治、経済、法律などの専門的知識の習得に勉学の喜びを感じており、さらに大学院に進学しより深く勉強したいとそれぞれ抱負を述べた。

# ～ 静岡県立大学創立15周年記念事業～

平成13年 2001年 は、21世紀元年の年であると同時に、本学の創立15周年目の年です。  
これを契機に、本学では静岡県の高度な教育・研究機関の一つとして、有為な人材の育成と優れた研究成果の発信を通じ、地域社会に大きく貢献すべきことを自覚するとともに、その決意を広く学内外にアピールするために「静岡県立大学創立15周年記念事業」展開しています。

今回は、既に4月20日の開学記念日を皮切りにスタートした開学記念行事の実施状況と今後の予定をお知らせします。

期 日	イベント名 (代表者所属部局等)	実施状況・実施計画
4月20日	開学記念行事 (開学記念行事実行委員会)	学生ホールを会場に第1部としてパネルディスカッション「創立15周年記念事業」、第2部「はばたきの集い」を行い、多数の教職員・学生が参加した。
5月20日 ～ 12月15日	SBS特別公開講座 (静岡県立大学・静岡新聞・SBS)	本学・静岡新聞・SBSの共催により「ヒューマンサイエンス～人のいのち」をテーマに8回にわたり特別公開講座を実施する。詳細は、本学ホームページに掲載。
5月31日 ～ 3月23日	自閉症の家族支援サロン (看護学部)	県下に在住する自閉症等発達障害児をもつ家族への支援サロンを開き、子どもの療育の質的向上と家族のストレス緩和を図る。
6月2日	第10回DDS カンファレンス 薬学部	若手研究者を中心に学内外160余人の参加を得て、新しい薬物伝送システム、リポソーム研究、遺伝子送達等について、講演・討議が行われた。
6月9日 ～ 3月	がんばれ難病患者・ 連続勉強会 (看護学部・短期大学部)	難病に対する関係者の理解を図ることを目的に連続勉強会を開催する。勉強会では、高度な難病ケアの教育・研究成果を広く社会に発信する。
6月～3月	大学紹介ビデオの制作・ インターネット配信 (経営情報学部・AVL委員会)	大学説明会等で使用するビデオを制作するとともに、そのインターネットによる配信を行う。
7月2日～4日	第16回日韓経済経営会議 (経営情報学部)	日韓の経済・経営分野の研究者・学生が参加し、経営構造改革、IT産業とベンチャービジネスなどを中心に討議を行った。
7月7日	食品栄養科学部棟研究室公開 (食品栄養科学部・生活健康科学研究科)	食品栄養科学部及び生活健康科学研究科食品栄養科学専攻の各研究室を一般公開した。
7月20日	第6回精神看護授業研究会 (看護学部)	看護基礎教育に携わる教員、臨床で実習指導に関わる看護職員を対象に教育効果を高める教育方法の検討を行った。
8月25日	環境科学研究所一般公開 (環境科学研究所)	各研究室の公開、研究内容の展示、デモンストレーション実験などを通じて、環境科学研究所を周知するとともに、県民の環境に対する認識を深めた。
6月23日～ 7月22日 ・10月7日	あなたの創る仮想美術館 (経営情報学部)	本学と県立美術館がそれぞれ有する文化資源の有機的な結合による新たな文化的価値の創造への取組みの一つである仮想美術館の成果を発表する。
7月28日～ 12月22日	環境学習サポーター養成講座 (環境科学研究所)	静岡県教育委員会との共催で「県民カレッジ」の講座の一つとして環境学習サポーターを養成する講座を開催する。
10月6日	学生大運動会 (看護学部運動会実行委員会)	全学部の学生の参加により運動会を実施する。 会場：芝生園地
10月6日 ～ 12月8日	静岡県立大学公開講座 (公開講座実行委員会)	10月6日から12月8日まで、県下4会場で、それぞれ「21世紀を健やかに生きる」「アジアの中の日本」「少子高齢社会の中で地域に生きる」「新たな地平」をテーマに、延べ18回の講義を実施する。
10月10日	橋本梧郎先生名誉博士号 授与記念講演(薬学部)	10月10日、本学の2人目の名誉博士となったブラジル在住の植物学者、橋本梧郎氏の名誉博士号授与記念講演を行う。
10月19日	静岡県立大学学術フォーラム (15周年記念事業実行委員会)	後藤研究費及び学長特別推進費による研究の成果発表会を開催する。 会場：看護学部棟 13411教室

11月3日～5日	第15回剣祭 (剣祭実行委員会)	今年度は、「2001年夢中の旅」をテーマに開催する。 ステージイベント：DonDokoDonお笑いライブ
11月3日	学生文芸コンクール・スピーチコンテスト (はばたき寄金)	学生の文芸作品(小説・誌・俳句・評論等)のコンクールと「私の夢」をテーマに日本語・英語スピーチコンテストを行う。
11月3日	創造力啓発コンテスト (はばたき寄金)	学長企画により、発明や省エネルギー・ユニバーサルデザイン分野でのアイデア提案を表彰する。
12月1日	震度7発生！～もしあなたが県大にいれば～ (ボランティア防's)	地域防災訓練の日に、大学周辺の住民の参加を得て、救命法の訓練や避難生活に必要な防災用品の展示などを行う。
12月13日	地域住民と学ぶフィジカル・アセスメント (看護学部)	本学周辺の住民に看護学部の演習に患者役として参加をお願いし、学生の学習状況を理解してもらうとともに、学生がフィジカル・アセスメントを効果的に学習するシステムを構築する。
12月5日～6日	第5回日中健康科学シンポジウム (シンポジウム実行委員会)	中国浙江省医学科学院の代表団を本学に招聘してシンポジウムを開催すシンポジウムテーマ分野 「創薬」「生命科学」「機能性食品」「環境」
12月7日	やあ先輩！21世紀の夢とロマンを語り合おう (明日の夢を語る会)	海外で活躍する各学部・研究科の卒業生等を本学に招き、学生との意見交換とともに将来の夢と希望を語り合う。

## 学術フォーラム研究発表テーマ

研究区分	代表者所属	テ - マ	研究代表者
学長特別研究 (特別推進研究)	薬学部	薬物受容体占有により薬効を実現する医薬品の創薬研究と臨床薬学的研究	教授 木村良平
	薬学部	光科学技術を用いたガン転移に関わる腫瘍微小循環系の研究	教授 中山貢一
	薬学研究科	病原細菌に対抗する宿主免疫システムの戦略的研究	教授 今井康之
	食品栄養科学部	腎不全治療用低たんぱく米の成分分析と新規低たんぱく米の開発	助教授 熊谷裕通
	国際関係学部	日本招来の粘土板楔形文字文書の刊行に向けての基礎研究	教授 尾崎亨
	国際関係学部	学校ストレスと健康の行動科学的基礎研究：国際比較を中心として	助教授 園田明人
	国際関係学部	国際関係学部における、スペイン語及びスペイン/ラテン・アメリカ文化、文学の教育/学習環境の立ち遅れの抜本的改善	講師 大楠栄三
	経営情報学部	次世代超高速ネットワーク利用技術開発の為の基礎研究	教授 鈴木直義
	経営情報学部	環境政策決定における合意プロセスの研究	(助教授) 中谷内一也
	看護学部	地域社会における健康推進に関する大学の役割	教授 金城祥教
	環境科学研究所	塩素処理によって生成する有機塩素系化合物の二次的環境汚染	教授 寺尾良保
	環境科学研究所	光がもたらすアポトーシス誘導阻害効果に関する研究	教授 五島廉輔
	環境科学研究所	ブラジル産植物資源の有効利用に関する研究	名誉教授 野呂忠敬
	短期大学部	免疫抑制剤タクロリムスのマイクロスフィア化がもたらす徐放効果の薬理学的免疫学的検討	教授 宇野武治
後藤研究 (茶先端生)	食品栄養科学部	茶先端生命科学の実施状況(総括発表)	教授 伊勢村護
後藤研究 (一般研究)	薬学部	活性酸素種分別消去検出系の開発と抗酸化物質の作用機序の解析	教授 豊岡利正
	薬学部	醸造酒、特にビールが示す生理作用の本体となる活性成分の探索研究	助教授 糠谷東雄
	薬学部	創薬を目指した安定人工キノコ熱水抽出物質の降圧作用及び脳保護作用に関する研究	助教授 山田静雄
	食品栄養科学部	食品成分と情動制御に関する研究	教授 横越英彦
	生活健康化学研究科	骨粗鬆症を予防する新しい健康食品の開発	教授 山口正義
	生活健康化学研究科	健康食品の生産のための葉緑体遺伝子操作技術の樹立	助教授 小林裕和
	環境科学研究所	食事由来の植物成分による生体内酸化防御バランスに関する基礎的及び疫学的研究	助教授 下位香代子

静岡県立大学創立15周年記念事業

学生文芸コンクール作品募集&スピーチコンテスト発表者募集

はばたき寄金では、学生文芸コンクール、学生スピーチコンテストを実施します。  
作品募集、参加者募集は次のとおりです。  
(詳細は学内に掲示してあるポスターをご覧ください。)

1 学生文芸コンクール

- (1) 文芸部門
  - 短編小説 400字詰め原稿用紙20枚以上
  - 短歌 10首(題をつけること)
  - 俳句 10句(題をつけること)
  - 紀行文 400字詰め原稿用紙10枚以内
  - 詩 自由
- (2) 評論部門 指定課題『学生から産業界への提言』  
—静岡経済同友会の提言を読んで—  
400字詰め原稿用紙10枚以上

2 学生スピーチコンテスト(発表日、11月3日(土))

- (1) 日本人学生の部『My Dream』
  - 英語 英文ワープロ原稿A4版3枚以内
- (2) 留学生の部『私の夢』
  - 日本語 日本語でA4版ワープロ原稿2000字以内

3 応募資格 静岡県立大学の全学生・研究生

4 募集期間 平成13年9月3日(月)～平成13年10月12日(金)

5 賞及び賞品

最優秀賞 賞状及び副賞(図書券または商品券5万円分)  
その他優秀賞、参加賞等があります。

6 応募・問い合わせ先

事務局経営課企画スタッフ(管理棟2階) 電話054-264-5103

<8月末寄金残高> 4,624,664円

前号(77号)以降の寄附者 寄附金総額 21件 752,000円

教職員(敬称略)

[食品栄養科学部] 竹石柱一 中山勉 匿名希望1名

[国際関係学部] 小谷野俊夫 渡辺聡

[看護学部] 岩本義久 北村キヨミ 高田ゆり子 新田静江 矢野正子

[生活健康科学研究科] 匿名希望1名

[環境科学研究所] 匿名希望1名

[事務局] 遠藤幸久 小出和美 長岡孝三 中川一政 学生部学生係一同

[団体等] 静岡県立大学後援会 静岡県立大学互助会 創星会(食品栄養科学部同窓会)

学外 大石紀子様(静岡女子短期大学卒 清水市)

平成13年度 科学研究費内定状況

平成13年度新規採択されたテーマ(21件は前号に掲載済み)

特定領域研究A(2)

研究代表者 阿部郁朗

研究課題名 スクアレンエポキシダーゼの構造機能解析

特別研究員奨励費

特別研究員 望月和樹(研究指導者 合田敏尚)

研究課題名 核内受容体PPARおよびTRの変動を介した小腸吸収関連遺伝子の発現調節

(短期大学部)

基盤研究(B)(2)

\*平成13年度新規採択研究

・イギリスにおけるショップモビリティと民間団体福祉サービスの総合的実態調査

研究代表者 社会福祉学科 助教授 佐々木隆志

基盤研究(C)(2)

\*平成12年度からの継続研究

・イギリスの痴呆症患者を対象にする介護技術の展開に関する研究

研究代表者 社会福祉学科 助教授 三富道子

・中年世代の老親扶養と老後生活に関する意識

研究代表者 社会福祉学科 助教授 佐藤宏子

・伝導型微量熱量計による米飯の老化熱測定

研究代表者 一般教育等 教授 原田茂治

\*平成13年度新規採択研究

・介護老人保健施設における終末ケアの実証的研究

研究代表者 社会福祉学科 助教授 佐々木隆志

・マイクロファイバ化タクロリムス製剤のラット心・肝移植における免疫抑制効果の検討

研究代表者 第二看護学科 教授 宇野武治

“はばたき寄金”からのお知らせ

平成15周年記念事業企画イベントへの助成

静岡県立大学創立15周年記念事業企画イベント「学生大運動会」(10月6日開催予定)に対して、6月30日、14万8千円の事業助成金を交付しました。

短期交換留学生に対する奨学金の授与

モスクワ国立国際関係大学への短期交換留学生、国際関係学部4年山田有紀子さんに対し、7月13日、廣部学長から奨学金を授与しました。



学長から山田さんへ奨学金授与

静岡県立大学創立15周年記念事業

## 第15回 静岡県立大学 公開講座

### 1 講義日程とテーマ

#### 静岡会場 県立大学看護学部棟13411講義室 テーマ：21世紀を健やかに生きる

10月6日(土)	女性と健康	看護学部 教授	北村キヨミ
10月20日(土)	スーパー病原菌の出現 -バンコマイシン耐性腸球菌について-	看護学部 教授	岩本 義久
10月27日(土)	こころの病とこころの健康	看護学部 講師	鈴木 啓子
11月10日(土)	健康な地域づくりをみんなの手で	看護学部 講師	奥野ひろみ

#### 三島会場 静岡県教育委員会三島分館 テーマ：アジアの中の日本

10月27日(土)	アジアの経済発展と日本	大学院国際関係学研究科 教授	小浜 裕久
11月10日(土)	中国民主化の可能性	大学院国際関係学研究科 教授	菱田 雅晴
11月24日(土)	中国の世界観・中華思想	大学院国際関係学研究科 教授	高木 桂蔵
12月1日(土)	朝鮮半島の安定と日本	大学院国際関係学研究科 教授	伊豆見 元
12月8日(土)	日本と中東 資源・イスラム・日米同盟との関連で	大学院国際関係学研究科 助教授	宮田 律

#### 静岡小鹿会場 短期大学部講堂 テーマ：少子高齢社会の中で地域に生きる

10月6日(土)	地域でいきいき子育て エンゼルプラン策定の体験を通して	短期大学部 教授	塩川 壽平
10月20日(土)	子どもをもつ母親のQOLを考える 育児負担感とソーシャルサポートとの関連について	短期大学部 助教授	岡田 節子
10月27日(土)	家族で介護を続けていくために 介護を助けるサービスの上手な活用について考える	短期大学部 助教授	石野 育子
11月10日(土)	高齢者のための音楽療法 その理念と方法	短期大学部 助教授	宮脇長谷子

#### 浜松会場 浜松市地域情報センターホール テーマ：新たな地平

10月6日(土)	日米開戦の歴史的意義 外交史研究の立場から	国際関係学部 講師	森山 優
10月27日(土)	言葉の失敗学 言い間違い研究のひろがり	国際関係学部 助教授	寺尾 康
11月24日(土)	中国結	国際関係学部 講師	余 頌科
12月1日(土)	自由貿易か、産業保護か それが問題か?	国際関係学部 講師	福永 有夏
12月8日(土)	言葉の変化を見つめる 誤用と文法の間	国際関係学部 講師	仁科 明

募集は9月17日で締切りました

## 学術フォーラム

### 受賞

## 国際シンポジウムで学生賞を受賞

生活健康科学研究科修士課程2年 石井剛志君

平成13年8月、米国サンフランシスコで第5回健康とライフサイエンスにおける質量分析国際シンポジウムが開催され、生活健康科学研究科食品栄養科学専攻修士課程2年の石井剛志君は、「酸化修飾蛋白質に関するプロテオミクス研究」という演題で発表した。脂質過酸化物は動脈硬化や老化などに関与しており、その中でも酸化生成物である低分子アルデヒド類は蛋白質と反応して修飾体を形成することが考えられているが、石井君は、質量分析のテクニックを用いることで、低分子アルデヒドによる蛋白質の特異的な修飾構造を明らかにすることに成功した。石井君の研究成果は、脂質過酸化物による生体への影響の解明に結びつくものとして高く評価され、大学院生の優秀な発表に対して贈られる学生賞(Student Award)を受賞した。なお、石井君はアジア地域から唯一の受賞であり、渡航費の援助として500ドルの特典も与えられた。

## 人事

### 採用

(5月1日付け)	
増田 修一	食品栄養科学部助手
竹下 登紀子	食品栄養科学部助手
(6月1日付け)	
桑原 美保	看護学部助手
佐藤 智子	看護学部助手
(7月1日付け)	
古田 巧	薬学部助手
碓 朋子	経営情報学部助手

## 学会開催

- ・日本環境変異原学会第30回大会  
(日時)平成13年10月21日(日)  
(場所)静岡グランシップ  
(大会長)出川雅邦(薬学部衛生化学教室)

## 研究助成金の採択

- ・平成13年度 厚生科学研究費  
(新興再興感染症研究事業：厚生労働省)  
回帰熱、レプトスピラ等の希少輸入細菌感染症の実態調査、及び迅速診断法の確立に関する研究  
増澤俊幸 薬学部 助教授
- ・平成13年度(財)三栄源食品化学研究振興財団研究助成  
「HPLCによる過酸化水素分析法の開発とその応用」  
熊澤茂則 食品栄養科学部 助手
- ・平成13年度(財)浦上食品・食文化振興財団研究助成金  
「スパイスが胃粘膜に及ぼす影響」  
渡辺達夫 食品栄養科学部 助教授、鈴木裕一 食品栄養科学部 教授



## 図書館だより

### 学生購入希望図書は早めに申し込みを

学部の先生や図書館職員の選定により、毎年約5,000冊以上の図書、雑誌を受け入れています。学生の皆さんが希望する図書も購入受入しますので図書館カウンターに申し込みしてください。予算に限りがありますので、早めをお願いします。

### 教員著作コーナーを設けます

次の先生から著書を寄贈していただきました。ありがとうございました。  
書架に配架して利用に供しています。

図書館自由閲覧室に教員著書案内コーナーを設ける予定ですので、先生方のご協力をお願いします。

《 本学教員著書 》(平成13年4～7月)

#### 尾崎 亨(国際関係学部 教授)

Istanbul Arkeoloji Muzelerinde bulunan umma metinleri = Die

Umma-Texte aus den archaologischen Museen zu Istanbul /

Band VI CDL Press 2001

(請求記号 829.71/G62/6 : 1階書庫 洋書コーナー配置)

#### 岩崎邦彦(経営情報学部 助教授)

都市トリジョナル・マーケティング：都市小売業と消費者行動の空間

分析 中央経済社 平成11年

(請求記号 673.7 /I96 : 2階閲覧室配置)

### 図書の配列整理にご協力を!

多くの利用により図書の配列が乱れがちです。利用者の皆さんに効率的に利用していただくため、毎朝、図書館職員が整列作業をしていますがなかなか追いつきません。

今年度から集中的に整理作業を実施するために、春と夏に休館期間を設けて対応することとしました。この夏季には1週間の臨時休館日に自然科学和書部門の書架整理を実施しました。次は春季休業中に実施する予定です。ご不便をお掛けしますがよろしくご協力願います。

### 図書検索システムのご提案、ご意見を募集

来年度、図書館では利用者端末の更新に伴い、図書検索システム(OPAC)を「より利用しやすい」ものにしていきたいと考えています。

そこで、利用者の皆様に「こんな事ができないか」、「ここをこうして欲しい」などのご提案・ご意見を募集しますのでご協力ください。(記入用紙は図書カウンター)

## クラブ・サークル紹介

### 弓道部

わたしたちは、現在男子17人女子17人の合計34人で活動しています。高校のときから弓道をやっていた人もいますが、大学から始めた人も少なくありません。

大学の敷地内に弓道場がないので、草薙神社の中にある弓道場を借りて練習をしています。この弓道場は日置流印西派という人数の少ない流派なので、ほかの大学との試合に行くときと珍しがられます。

試合は5月に東海大会、9月から10月にかけてリーグ戦、12月に新人戦があり、草薙神社の道場でも7月に流派の大会があります。また、春と秋には神社の射会があります。

今は、リーグ戦に向けて練習しています。男女とも、上のリーグに昇格することを目指しています。



### マンドリンクラブ

静岡県立大学は今年で14年目を向かえる総勢27名の音楽系クラブです。

マンドリンと一言で申し上げてもピンとこない方が多いと思われませんが、マンドリンはイタリアの弦楽器で(写真)トレモロ奏法という独特の奏法で弾くのが特徴です。非常にきれいな、ロマンチックな音を奏してくれます。

我が部では、マンドリンのほかに、マンドリンより1オクターブ低いマンドラや2オクターブ低いマンドリンセロ、それにギターやコントラバスを加えてマンドリンオーケストラなるものを形成しています。

主な活動は、毎年5月に開かれる静岡大学との合同演奏会、12月にやる定期演奏会のふたつです。現在は、来たる12月9日(日)の第14回定期演奏会に向けて日々練習に励んでいます。演奏会はこちらの大学の講堂で行いますので、まだ先の話ですが、マンドリンに興味を持たれた方はぜひ聴きにいらしてください。

